

しろ がね ばし

城嶺橋

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：愛知県春日井市・瀬戸市 竣工年：1937（昭和12）年

管理者：愛知県

認定理由：昭和初期、定光寺周辺における名勝地への主要門戸として、玉野川(庄内川)へ架橋された美しい3径間開腹アーチ橋である。

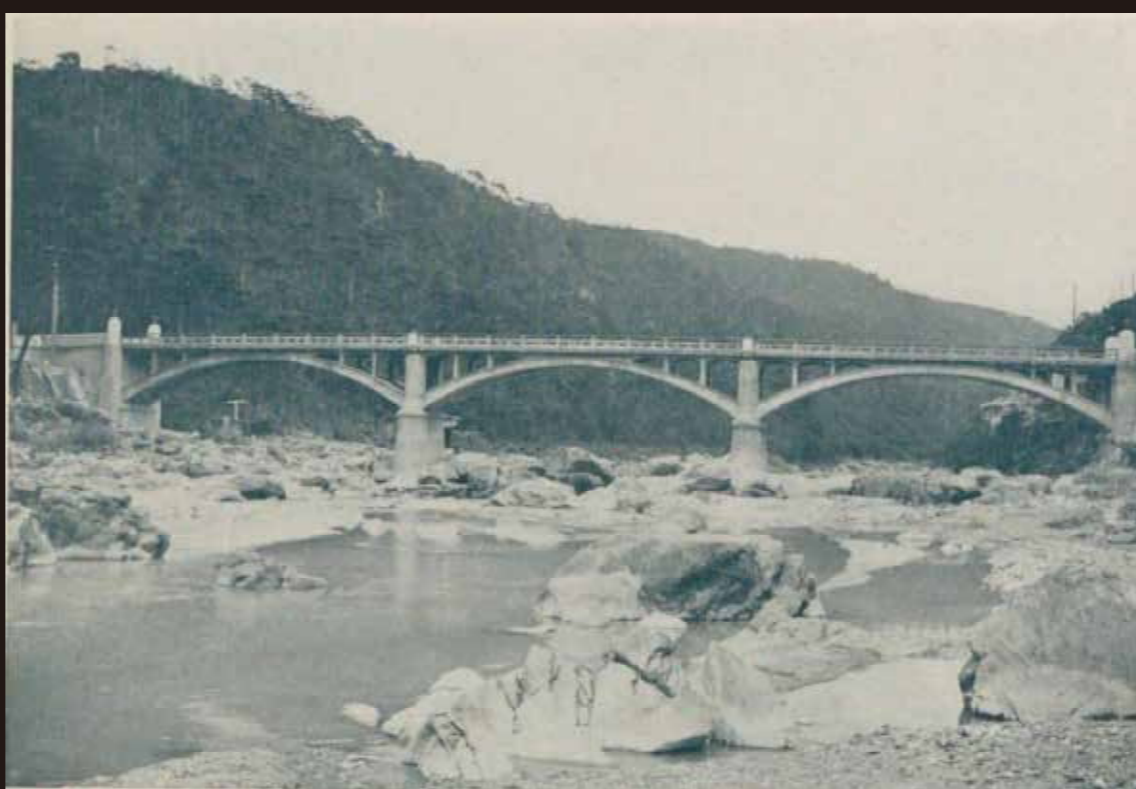
令和7年度登録



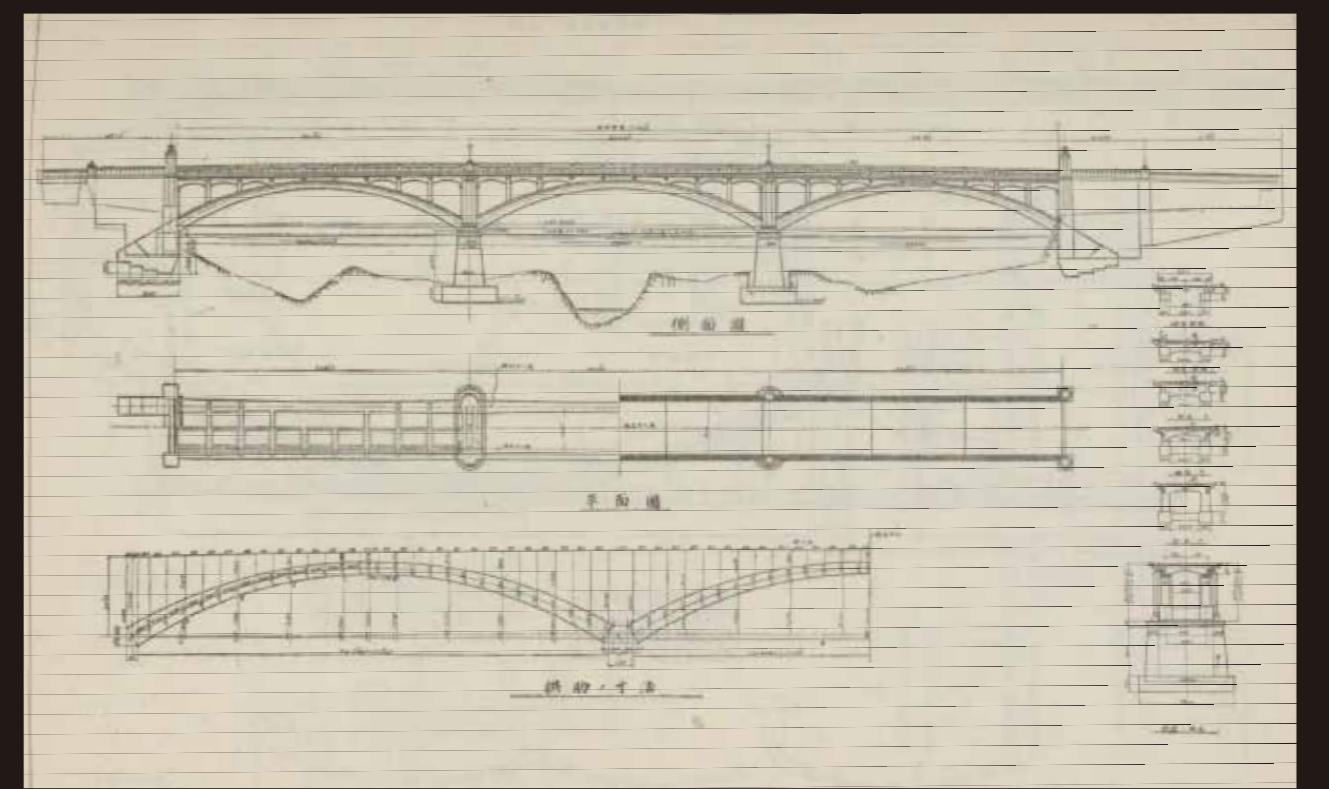
城嶺橋は、日本で鉄筋コンクリートアーチ橋の建設が拡大した1930年代に建設された。「城嶺橋」の歴史は1910(明治43)年まで遡る。名古屋開府300年記念祭に合わせて初代橋梁が架けられた。定光寺のある山の麓から名古屋城を遠望できたことが名前の由来だという説がある。現在の城嶺橋は1937(昭和12)年に完成した3代目で、源敬公廟の国宝指定に合わせ、観光地に相応しい橋として計画された。庄内川(玉野川)の渓谷美と紅葉は見事で、名古屋の奥座敷として界限には大きな旅館や飲食店が建ち並び、にぎわい、それは戦後も続いた。美しい展望を望む城嶺橋はその造形美もあいまって、定光寺参詣や観光の撮影スポットとしても恰好の場所であったと言われる。

定光寺周辺における名勝地への主要門戸として、明治期から続く地域における観光の発展に大きく貢献した系譜的価値は非常に高く、その造形美とともに評価され、選奨土木遺産に認定された。

付近には庄内川に沿って敷設された旧・中央線跡がある。近年では、登録有形文化財となった通称・愛岐トンネル群を見学するイベントが開催され、多くの観光客が城嶺橋を渡り、橋上から庄内川を眺める光景が見られる。



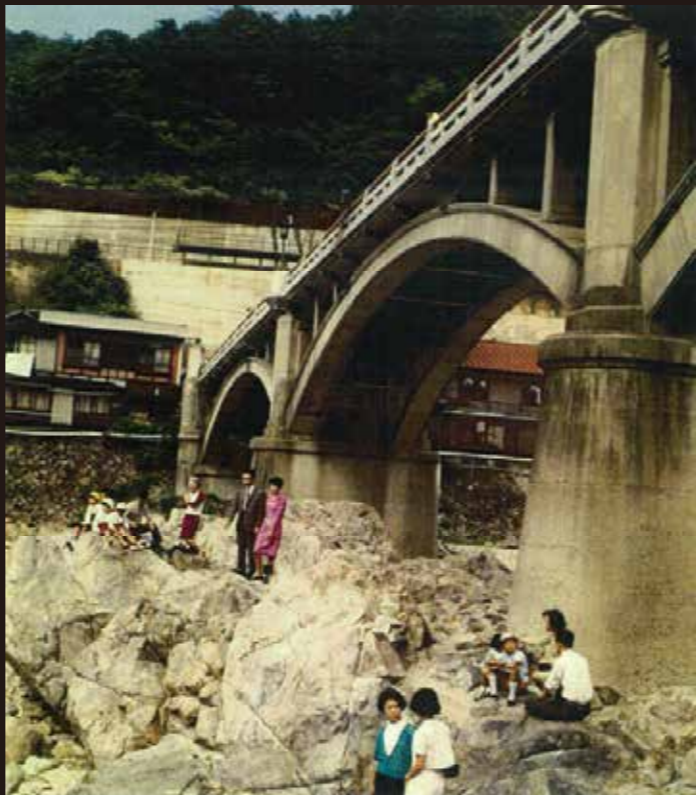
▲ 完成直後の城嶺橋



▲ 設計図(内務省土木試験所編『本邦道路橋輿覧』第4輯(昭14))



▲ 桜の季節の玉野川風景(1965年)



◀ 観光の風景(1968年)

